

神の息、愛の火——聖霊降臨日に

使徒言行録 2 : 1 - 11



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年5月19日

聖霊降臨日

聖光教会にて

今日は聖霊降臨日。一言で言ってキリスト教会の誕生日です。このわたしたちの教会の始まりを 2000 年前までたどっていくと、この日、エルサレムで起こった出来事に行き着きます。今日は、この日そこで起こった出来事を再発見したい。そしてその昔の出来事が、今のわたしたちの力となることを願います。

時は紀元 30 年の 5 月、ユダヤ教の五旬祭の時でした。五旬祭とは、元々春の小麦の収穫祭でしたが、これがモーセが神から律法を授かった記念の日として祝われるようになったもので、中心は礼拝です。多くの人々がエルサレムに集まって来ていました。

その日、イエスを信じる人々が 100 人あまり一つに集まっていました。その人々は、10 日前に天に昇られたイエスの約束の言葉を深く心にとめていました。

「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。あなたがたは高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」ルカ 24:49

「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」使徒言行録 1:4

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。」

使徒言行録 1:8

それでこの人たちは、主イエスが「あなたがたに送る」と言われた聖霊を祈り求めて待っていたのです。そこにこの日、事

件が起きました。今日の使徒言行録にこう記されていました。

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」 2:1-4

この日、祈っていた人たちに注がれた聖霊とはどういうものであったか。二つの言葉から確かめていきましょう。ひとつは「風」、もうひとつは「炎」です。

まず「風」です。聖霊は風のように激しく吹いて来た。聖霊は風として働く。

ところで、かつてイエスが律法の教師ニコデモにこう言われた言葉をご記憶でしょうか。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」 ヨハネ 3:8

謎のようなイエスの言葉ですが、ここで「風」と訳された言葉は「プネウマ」で、実は「霊」という意味の言葉です。「霊は思いのままに吹く。」神の霊、聖霊は、人間の予想を超えてみずからが願うとおりに自由に働く。そして「霊から生まれた者も」と言われるとおりに、「霊から生まれる」ということがあるのです。

聖霊は人を新しく生まれさせる。人をいろんな束縛から解放して自由にする。

ニコデモもイエスの弟子たちも、それを聞いたときは何のことかよく分からなかったのですが、そのことが、今、聖霊降臨日に起こったのです。神からの風、聖霊が人々の心と体の中に吹き込まれ、人を新しくした。人をあらゆる不安や恐れ、束縛から解放し、喜びと力で満たした。これが聖霊降臨日です。

ここで言われる「風」とは神の霊、聖霊のことだと言ったのですが、もう一つそこに意味が重なっています。それは「息」です。神からの風、聖霊とは、神の命の息なのです。

神が最初に人間を造られたときのことが創世記に記されています。

「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」2:7

まず、人間の形が造られた。形は立派にできたけれども動きません。生きていません。しかしその人の鼻に、神はご自分の命の息を吹き入れられた。「人はこうして生きる者となった。」これは最初の人間について言われているのですが、それはすべての人間、つまりわたしたち一人ひとりも同じです。わたしたちにも、神の命の息が吹き込まれた。それがわたしたちの誕生です。神の息が吹き込まれたから、わたしたちは生かされて生

きる者となったのです。

風は、霊は自由に思いのままに吹くのですから、わたしたちはいろいろな場面、いろいろな時に神の風、聖霊、神の命の息を受けてきたはずです。しかしもう一度決定的にわたしたちは命の息を受けた。それは、主イエスを知ったとき、イエスと出会ったときです。洗礼はその大切な機会です。

ところで今日の福音書で、復活のイエスは弟子たちに向かって語ると同時に、あることをされました。何だったのでしょうか。

「イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。』そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。

『聖霊を受けなさい。』」ヨハネ 20:21-22

イエスはご自分の息を弟子たちに吹きかけて言われた。

「聖霊を受けなさい。」

そして聖霊降臨日には、はるかに大勢の人々が同時にイエスの息を、聖霊を受けたのです。勇気と喜びが満ちてきます。

聖霊降臨日に吹き来たった風。これは神の息であり、イエスの息だ、ということをお話ししました。もう一つ、「炎」に注目しましょう。

「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」使徒言行録 2:3

炎、つまり燃える火です。何が燃えているのか。神の愛の火が燃えているのです。燃える神の愛の火が、集まって祈っている人々一人ひとりにとどまった。神の愛の火を受けたらどうなるか。うれしい！ 喜びが起こります。イエスが生きてわたしとともにおられることがはっきりわかります。元気が出ます。同時に、わたしの中の不純なもの、悪しきものが焼かれて消滅していきます。わたしたちは清められ、強められます。神さまのため、イエスさまのため、人のために何かしたい、という願いが起こります。神の愛の火がわたしたちの心を燃やし、課題に取り組ませます。

このように神の息を吹き込まれ、神の愛の火に燃やされるといふ何ものにも代えがたい経験を共にした。これが聖霊降臨日です。教会の出発点です。これをわたしたちは受け継いでいます。

わたしたちも神の命の息、イエスの息を吹き込まれた。わたしたちとは何ものか。イエスの息のかかった者です。イエスの影響と力を受けている者。イエスの願いを託された者です。わたしたちも神の愛の火、聖霊の火をいただいた。わたしの中にも、神の愛の火が燃えているはずなのです。

けれどもわたしたちは、ひょっとしたらこのことを十分に知らないできたかもしれませぬ。あるいはかつてある時期は心が

燃えていたのに、いつの間にかあいまいになってしまった、ということがあるかもしれません。しかし神の息がわたしから去ったわけではありません。神の愛の火が消えてしまったわけではありません。今も、神がわたしたちを愛し続けていてくださるがゆえに、神の息はわたしたちのうちにあり、神の愛の火はわたしたちのうちで燃えているのです。

求めましょう、聖霊を。神の息を求めましょう。神の息がわたしの心と体、細胞まで吹き入って、わたしたちをみずみずしくよみがえらせるように。願いましょう。神の愛の火を願い求めましょう。神の愛の火がわたしたちの中ではっきりと燃えるように。それが、聖霊降臨日に主がわたしたちに願っておられることです。

祈りましょう。

神さま、2000年前の今日、イエスさまを信じて集まり祈っていた人々に注がれた聖霊を、新しくわたしたちに注いでください。すでにわたしたちのうちに与えてくださったあなたの息を、新しく深く呼吸するようになしてください。すでにわたしたちに宿してくださったあなたの愛の火を、強く燃え立たせてください。わたしたちの信仰と生活に聖霊の喜びと力をお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン